

「産後の母親役割獲得」の概念分析

相澤麗奈* 二宮杏珠* 花谷実歩* 山本紗佑里* 吉岡真奈* 森永裕美子**

要旨：本研究の目的は、「産後の母親役割獲得」の概念を明らかにし、出産後の親子の健やかな育ちのための、その概念の活用可能性について検討することである。Rodgersの概念分析方法を用いて分析し、33の対象文献により4つの属性、9つの先行要因、3つの帰結を抽出した。その結果、「産後の母親役割獲得」は「生まれた子どもをわが子として受け入れ、育児技術の習得の段階を経て母親としての自覚をもち、母子関係を構築する過程で母親自身が成長することである。」と定義された。本概念の特徴は、妊娠期の母親役割獲得に比べ、授乳行動や児への直接的な世話など、児との直接的な関わりを持つことによる相互作用が大きく関わっていることであった。また本概念を関係者間で共有したうえで産後早期の出産体験の振り返りや、医療スタッフや地域における支援者からのサポートがなされることによって、児への愛着が促され、出産後の親子の健やかな育ちへとつながっていくと考える。

キーワード：産後、母親役割獲得、概念分析

1. はじめに

現在の日本では、結婚した夫婦がもつ子どもの数が漸減傾向にあり、合計特殊出生率も1.30であり6年連続で前年を下回っている。この状況の背景として、育児に関する身体的、経済的な負担や、都市化・核家族化の進展などによる家庭の養育力の低下及び地域における相互助け合いの低下がある。かつては二世帯以上の同居による家族や近隣から得られていた知恵や支援が、今や得られにくいという育児における孤立といった問題点が指摘されている¹⁾。三世帯世帯であれば、家事などを多くの世帯人員で分担することが可能となるが、核家族世帯では、少ない世帯人員で担うこととなる¹⁾。さらに、父親の育児休暇の取得率は近年上昇傾向にあるものの、令和元年で7.48%と伸び悩んでいるため²⁾、母親の育児負担が顕著に減っていないことが考えられる。このような育児の孤立化や育児負担は、子育てへの不安をもたらすことが予想される。さらに子育て不安の強い母親は虐待傾向にあることが明らかになっている³⁾。

令和2年度の児童虐待相談件数は20万件を超えており、過去最多件数であった。その主たる加害者

は母親の割合が高くなっており⁴⁾、虐待傾向として母親役割否定意識との間に正の相関があることが明らかになっている⁵⁾。つまり母親としての役割を認識できることが虐待を予防できるとも考えられる。一方で、初産婦は産後入院中から産後1か月にかけて母親役割の自信が高まるものの、児の授乳から寝かしつけまでに時間がかかるほど、母親役割の自信が低くなり、母親であることの満足感は低下する傾向がある⁶⁾。そのため、産後から育児を適切に行う能力を持っていると自信をもち、児との相互作用の中で役割課題の達成から経験する満足感や達成感を高められるような母親への支援が必要とされている⁶⁾。したがって、母親が実際に子どもに関わり世話をを行う中で満足感や達成感をもつ過程は、自信を持つことにつながり、安定的な母親役割獲得が期待できると考えられる。さらにルービンによると、産後は子どもとの位置関係や母親としての自己に対する位置関係が大きく変わる⁷⁾。子どもとの位置関係とは、胎内の奥深い部分から外の環境の空間へと変わることで、胎内という空想の中での子どもから、眼前の認識できる現実の子どもへ移行することである。

こういった子どもとの物理的、3次元的位置関係

* 岡山県立大学大学院保健福祉学研究科看護学専攻

** 岡山県立大学保健福祉学部看護学科

の変遷をたどることは、母親としての自己を確認する様式として、取り込みという受容的なものから、取り入れおよび積極的行動となり、子どもの母親である自己をもつことへと移行すると言われ、この位置関係と方向付けの修正のほとんどは、出産後最初の1か月に達成される。つまり、妊娠中から出産直後までは、母親としての自己を持つための移行のプロセスが確立している。一方で、母子の絆形成(binding-in)過程は、2～3か月は不安定であり⁷⁾、産後4か月ごろになって母親に育児への自信が持てると言われている⁸⁾。これらから産後から母親役割をスムーズに獲得することによって母子の相互関係、絆の形成が円滑になされれば、産後に母親が育児への自信を失ったり、満足できなかつたりすることを緩和できるのではないかと考えた。

二川らは、母親役割を「子どもとの相互作用を通して、自身の成長のために葛藤し、母親としてのアイデンティティを積み上げる」と定義している⁹⁾。しかし「相互作用」や「アイデンティティ」が具体的に母親のどのような心情や行動の変化を示すのが曖昧である。また自身の成長のために葛藤することや、母親としてのアイデンティティを積み上げることには、いくらかの経過、プロセスがあると考えられるが、どのようなプロセスがあって母親役割を獲得していけるのかはわからない。

そこで「母親役割」だけではなく、「母親役割獲得」までのプロセスを概念化することで、支援や介入を検討するための一助となる。

そのため、本論文では「産後の母親役割獲得」の概念を明らかにすることで、出産後の親子の健やかな育ちのための、その概念の活用可能性について検討することを目的とする。

II. 用語の定義

本研究において、「産後」とは、出産時から、母親としての自信を持ち母親役割獲得を達成と言われる産後3～4ヶ月までの期間を指す¹⁰⁾と定義した。

III. 研究方法

1) 概念分析の方法の選択

産後の母親役割は経時的に変化すると考えられることから、概念は経時的に変化する社会的な文脈から導かれて生じ、時間や状況を超えて発展するもの

であるととらえている¹¹⁾ Rodgersの概念分析の方法¹²⁾を用いた。

2) データ収集

本研究では分析する概念を「産後の母親役割獲得」とし、母親役割は、その国の文化や伝統、女性の社会進出度合いなどの社会的背景が影響すると考えられるため、対象文献は和文献からとした。データベースは、国内の医学・歯学・薬学・看護学および関連分野の論文情報を網羅的に検索・提供する医学中央雑誌Web版Ver.5を使用した。産後の母親役割獲得についての論文を検索するため、キーワードを「母親役割」「獲得」「産後」とし、全てのキーワードが含まれていない論文も含めて幅広く抽出できるように「母親役割」「獲得」と「母親役割」「産後」で検索した。医学中央雑誌Web版では、「母親役割」「獲得」で検索し54件抽出され、「母親役割」「産後」で検索し72件抽出されたため、重複している文献や無関係なものを除外し、最終的に33件を対象文献とした。

3) データ分析

選定した文献について、①産後の母親役割獲得に先立って生じることを示す「先行要因」、②産後の母親役割獲得の特性や性質を示す「属性」、③産後の母親役割を獲得した結果として生じることや成果を示す「帰結」が記述されていると読み取れる部分を抽出した。①②③のデータについて意味内容を損なわないようにコード化し、類似性や相違性を検討しながらサブカテゴリ化、カテゴリ化を行い、その結果を踏まえて「産後の母親役割獲得」の概念の定義を行った。構成要素を明らかにした後、先行要因、属性、帰結からなる概念図を作成した。

4) 倫理的配慮

本研究で使用した文献については、出典元を明らかにし、引用する際は著者の意図が損なわれないように努めた。

IV. 結果

分析の結果、4つの属性、9つの先行要因、3つの帰結を抽出した(図1)。以下、カテゴリを【 】, サブカテゴリを『 』で示し、概念分析の結果を属性、先行要件、帰結の順で記述する。

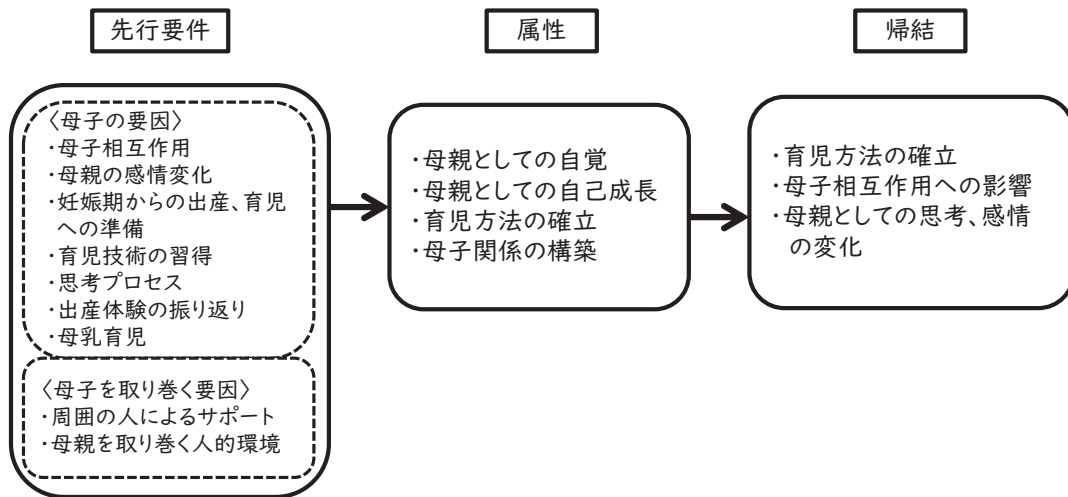


図1 産後の母親役割獲得の概念モデル

表1 産後の母親役割獲得の属性

カテゴリ(属性)	サブカテゴリ	文献番号
母親としての自己の成長	育児経験による母親としての自己の成長	26, 41
育児方法の確立	育児知識・技術の習得	13, 14, 15
	自分と我が子に合った育児方法の確立	16, 17, 18, 19
	授乳方法の確立	14
母子関係の構築	養育能力獲得による母子関係の構築	20, 21
母親としての自覚	アイデンティティ獲得	17, 18
	育児に対する責任と役割を得る	22, 23, 24
	肯定的感情	16, 17, 19

1) 属性

分析の結果、産後の母親役割獲得の属性として4つのカテゴリが抽出され、【育児方法の確立】や【母子関係の構築】により、【母親としての自覚】が芽生え、【母親としての自己の成長】が見られた(表1)。

【母親としての自己の成長】では、出産、産褥からその後の育児行動を通して、相互作用により発達変容するとされている『育児経験による母親としての自己の成長』から成り立っていた。

【育児方法の確立】は『育児知識・技術の習得』と『自分と我が子に合った育児方法の確立』と『授乳方法の確立』から成り立っていた。

『育児知識・技術の習得』では、母親であることを受容¹³⁾し、基本的な知識、技術の習得¹⁴⁾によ

て母親としての準備を整えていくこと¹⁵⁾であった。『自分と我が子に合った育児方法の確立』では、我が子のニーズに適合する方法¹⁶⁾を試行錯誤¹⁷⁻¹⁹⁾することで自分と子に合ったやり方の確立に向かう¹⁹⁾とされていた。『授乳方法の確立』では、児の空腹の要求に合わせた授乳方法の確立が育児方法の確立につながっていた。

【母子関係の構築】では『養育能力獲得による母子関係の構築』が挙げられており、母親が子どもに対して適切な養育行動がとれるための能力を獲得し、子どもの母親としての自己を受け入れるとともに、子どもを新しい家族員として組み入れ、子どもとの絆を形成していく過程^{20~21)}とされていた。

【母親としての自覚】では『育児に対する責任と役割を得る』と『肯定的感情』と『アイデンティ

表2 産後の母親役割獲得の先行要件

カテゴリ(先行要件)	サブカテゴリ	文献番号
母子相互作用	児への愛情	17, 30, 33, 38
	相互作用	17, 19, 34, 40
	直接的な触れ合い	35, 37, 39
	児の個別性に応じた育児	34, 21, 35, 41, 42
	児の成長	13, 30, 33, 38
	生理的な変化	37
母親の感情変化	育児によってもたらされる肯定的感情	13, 17, 19, 21, 30, 33, 34, 35
	否定的感情の表出によるその解消	16, 35
周囲の人によるサポート	医療スタッフのサポート	22, 24, 30, 44
	家族のサポート	22, 26, 33, 36, 44, 45
	評価的サポート	32, 36
妊娠期からの出産・育児への準備	妊娠期からの出産・育児に関する学習	22, 27
	妊娠中の変化に対する関心の高まり	25, 26
	出産と産後のイメージ	16, 22, 23, 28
育児技術の習得	育児技術の習得をする	13, 15, 28
思考プロセス	母親の自身に対する認識の変化	15, 16, 26
出産体験の振り返り	出産に対する肯定的感情	22, 23, 25, 26, 32
	出産時の心情を振り返る	29, 30, 31
母乳育児	母乳育児の実施	21, 24, 36, 37
	母乳育児によって母親としての実感を得る	24
	授乳行動の確立	23, 33
母親を取り巻く人的環境	夫との関係	26, 43
	母親モデルの存在	16, 27

ティ獲得』から成り立っていた。

『育児に対する責任と役割を得る』は、子どもに対して適切な養育行動²²⁾がとれ、母子の愛着が形成²³⁾されることによって母親としての実感を持つ^{23~24)}ことができることであった。『肯定的感情』は、母としての自信、効力感、自己肯定感¹⁷⁾、満足感¹⁹⁾、心地よさ¹⁶⁾を得ることであった。『アイデンティティ獲得』では子との相互作用を通して葛藤し¹⁷⁾、子と自身の成長を実感し得られる¹⁸⁾とされていた。

2) 先行要件

分析の結果、産後の母親の役割獲得の先行要件として9つのカテゴリが抽出され、【妊娠期からの出産・育児への準備】と、産後に【出産体験の振り返り】

を行い、【母親の感情変化】や特有の【思考プロセス】が見られ、【母乳育児】や【育児技術の習得】を通して、【母子相互作用】が形成されていた。また【母親をとりまく人的環境】や【周囲の人によるサポート】の状況が母親の役割獲得に関与していた(表2)。

【妊娠期からの出産・育児への準備】は、『妊娠中の変化に対する関心の高まり』と『妊娠期からの出産・育児に関する学習』、『出産と産後のイメージ』から成り立っていた。

『妊娠中の変化に対する関心の高まり』については、自分自身の心身の変化や胎児の様子に関心を持つこと²⁵⁾で、母親としての実感が高まっていた²⁶⁾。『妊娠期からの出産・育児に関する学習』については、地域の保健師と沐浴練習やおむつ交換の

練習をし、ロールプレイを行うこと²⁷⁾や、分娩に対する不安を軽減させる指導を受けること²²⁾が挙げられていた。『出産と産後のイメージ』については、バースプランなどによる出産のイメージ化の促進を行うこと²²⁾や、母親としての自分の姿を想像することで¹⁶⁾、産後の身体的変化や生活についてのイメージを具体的にし、準備を行っていた^{22~23)}。また、妊娠中からの乳房ケアを行い、母乳に対する肯定的イメージを高めていた²²⁾。そしてこれらのことが子育てへのポジティブな認識²⁸⁾へとつながっていた。

【出産体験の振り返り】は、『出産時の心情を振り返る』ことと『出産に対する肯定的感情』から成り立っていた。

『出産時の心情を振り返る』ことについては、バースレビュー²⁹⁾や第三者と出産の体験談を話す³⁰⁾などして、分娩後早期に分娩の振り返りを行うこと³¹⁾で、自らの出産体験に意味を見出していた³⁰⁾。『出産に対する肯定的感情』については、出産により喜び²⁶⁾や満足を得る^{22, 25, 32)}ことで、出産体験を肯定的にとらえられていた²³⁾。

【母親の感情変化】は、『育児によってもたらされる肯定的感情』と『否定的感情の表出によるその解消』から成り立っていた。

『育児によってもたらされる肯定的感情』については、周囲からの祝福による喜び³³⁾や、母子ともに順調に経過している喜び³⁰⁾が生まれていた。また、わが子の世話に関する基本的な技術を一通りできること³⁴⁾により、自分の成長を感じ^{13, 33)}、この子の母であるという実感¹³⁾や母親であるという満足感³⁴⁾、母親としての自己肯定感^{17, 19, 21, 34)}を得ていた。『否定的感情の表出によるその解消』については、悲嘆作業により否定的および両価的感情の表出をすること¹⁶⁾と、見と一緒に生活することへの戸惑いながらも試行錯誤すること³⁵⁾が挙げられた。

【育児技術の習得】は、『育児技術の習得をする』ことから成り立っており、試行錯誤しながら¹³⁾母親役割に関する知識・技術を習得^{15, 28)}し、自分と子どもにあった育児方法を確立していた¹³⁾。

【思考プロセス】は、『母親の自身に対する認識の変化』から成り立っており、母親になることへの自覚²⁶⁾を持ち、役割¹⁶⁾について考え、責任を持つ²⁶⁾ことで、母親としての自己形成¹⁵⁾をしていた。

【母乳育児】は『母乳育児の実施』と『母乳育児

によって母親としての実感を得る』と『授乳行動の確立』から成り立っていた。

『母乳育児の実施』では母乳育児の体験^{21, 24)}、母乳のみの授乳³⁶⁾、直接授乳によるオキシトシンの上昇³⁷⁾が含まれていた。『母乳育児によって母親としての実感を得る』では、搾乳や直接母乳を通して、母としての実感が得られる²⁴⁾とされていた。『授乳方法の確立』では母乳哺育及び授乳の援助や育児相談³¹⁾を通して、授乳行動がスムーズに行えること²³⁾が挙げられていた。

【母子相互作用】は『児への愛情』と『直接の触れ合い』と『児の成長』と『相互作用』と『児の個別性に応じた育児』と『生理的な変化』から成り立っていた。

『児への愛情』では、児との愛着形成^{17, 38)}や愛おしい子供の存在³⁰⁾や子どもに対する愛情³³⁾が含まれていた。『直接の触れ合い』では、カンガルーケア³⁷⁾やタッチケア³⁹⁾の触れ合いを通して得られる母親としての実感³⁵⁾が挙げられていた。『児の成長』は、月齢に応じた成長を感じ^{13, 33, 38)}、小さな身体で頑張っている子どもから励ましを得る³⁰⁾ことであった。『相互作用』では、母子相互作用^{18, 19, 40)}を通して愛着を深め⁴⁰⁾、接触やコミュニケーションを楽しむこと^{19, 34)}とされていた。『児の個別性に応じた育児』では、自分の子どもの合図の読み取り^{34, 41, 42)}を行い、要求への応答^{34, 42)}が出来たことで自分と我が子に合ったやり方の確立^{34, 42)}によって子どものニーズに応える²¹⁾ことができた喜び³⁵⁾が含まれていた。『生理的な変化』ではオキシトシンが高くなることが要因³⁷⁾となると挙げられていた。

【母親を取り巻く人的環境】では『夫との関係』と『母親モデルの存在』から成り立っていた。

『夫との関係』では夫の肯定的な反応²⁶⁾、夫への愛着が強く良好な夫婦関係⁴³⁾が含まれていた。『母親モデルの存在』では、周りに妊婦や子育て経験者がおり²⁷⁾、身近に母親モデルの存在がある¹⁶⁾ことが挙げられていた。

【周囲の人によるサポート】は『医療スタッフのサポート』と『家族のサポート』と『評価的サポート』から成り立っていた。

『医療スタッフのサポート』では医師、助産師、看護者との信頼関係^{24, 30, 44)}や産後早期の医療処置や保健指導、知識提供^{22, 30)}が含まれていた。『家族のサポート』では、父親や周囲の重要他者の家事・育

表3 産後の母親役割獲得の帰結

カテゴリ(帰結)	サブカテゴリ	文献番号
育児方法の確立	スムーズな育児の確立	13
	自分と我が子に合った育児方法の確立	14, 35
母子相互作用への影響	母親が児に抱く感情の変化	39
	児の順調な発達	41
母親としての思考・感情の変化	母親としての役割に肯定的感情を示す	16, 34
	母親としての自信獲得	21, 24, 25, 33, 35
	母親としての自己肯定感の芽生え	21, 25, 26
	母親としてのアイデンティティ確立	13, 25, 35
	経験による満足感の向上	25, 43

児のサポート^{22, 26, 33, 36, 44, 45)}への満足感³⁶⁾が含まれていた。『評価的サポート』では、頑張りを認めること^{32, 36)}が挙げられていた。

3) 帰結

産後の母親の役割獲得の帰結として3つのカテゴリが抽出され、母親の役割獲得ができると、【母親としての思考・感情の変化】が生じ、【母子相互作用への影響】や【育児方法の確立】が可能となっていた(表3)。

【母親としての思考・感情の変化】は、『母親としての役割に肯定的感情を示す』『母親としての自信獲得』『母親としての自己肯定感の芽生え』『経験による満足感の向上』『母親としてのアイデンティティ確立』から成り立っていた。『母親としての役割に肯定的感情を示す』について、母親としての役割に喜びと感謝の気持ちを表現する^{16, 34)}ことが挙げられた。

『母親としての自信獲得』について、母親としての自信が得られ^{25, 33, 35)}、母親としての自己効力感が高まる^{21, 24)}ことが挙げられた。『母親としての自己肯定感の芽生え』については、出産後の育児を受容し²⁶⁾、自己の肯定的な評価ができ²¹⁾、自己肯定感が高められる²⁵⁾ことが挙げられた。『経験による満足感の向上』については、出産満足度²⁵⁾が高まり、育児環境が整うことで母親の精神的な満足や安定を得られること⁴³⁾が挙げられた。『母親としてのアイデンティティ確立』については、母親としてわが子の世話や命を守る存在なのだという責任³⁵⁾や自覚²⁵⁾を感じ、泣きへの対応などの成功体験を通して、

母親としての成長を感じていた^{13, 35)}。また、これらによって自分なりの母親としての自己形成をしていた²⁵⁾。

【母子相互作用への影響】は、『母親が児に抱く感情の変化』『児の順調な発達』から成り立っていた。

『母親が児に抱く感情の変化』については、わが子への関心が高まり、わが子に対する接触の欲求を示していた³⁹⁾。『児の順調な発達』については、離乳の進行が順調になることが挙げられていた⁴¹⁾。

【育児方法の確立】は、『スムーズな育児の確立』『自分とわが子に合った育児方法の確立』から成り立っていた。

『スムーズな育児の確立』については、不安のないスムーズな育児¹³⁾が可能になることが挙げられていた。『自分とわが子に合った育児方法の確立』については、わが子の泣きの理由や哺乳の特徴などの合図を読みとり³⁵⁾、わが子の要求に応答できる力を獲得することで自分とわが子に合ったやり方を確立していた¹⁴⁾。

V. 考察

1)「産後の母親役割獲得」の定義

「産後の母親役割獲得」の概念を分析した。その結果、「産後の母親役割獲得」は「生まれた子どもをわが子として受け入れ、育児技術の習得の段階を経て母親としての自覚をもち、母子関係を構築する過程で母親自身が成長することである。」と定義することができた。

松尾らの妊娠期の母親役割獲得の概念分析では、「母親モデルと自己のすり合わせを行い、心理的調整や行動の変化、周囲との関係の再構築を行うことにより、母親としての準備を整えること」と定義されていた⁴⁶⁾。産後の母親役割獲得では、子どもとの位置関係が胎内から外の環境の空間へ、空想の中で子どもから認識できる現実の子どもへと大きく変わること⁷⁾から、【育児技術の獲得】や【母乳育児】など育児による【母親としての自覚】や【母親としての自己の成長】が見られることが特有であると考えられた。これは、ルービンによる「母親としての自己を確認する様式は、取り込みという圧倒的に受容的なものから、取り入れおよび積極的行動へ、そしてこの子どもの母親であることへと移行する」ことが、産後に育児という積極的行動、つまり直接的な触れ合いや、育児知識・技術の習得によって母親役割を獲得していくということを意味し、本概念を支持できるものと考えられる。

一方で本研究において産後の母親役割獲得の先行要件として【妊娠期からの出産・育児への準備】があることが明らかになったように、産後の母親役割獲得には、妊娠期の母親の状況が重要となる。また、二川らによると、「妊娠するまでの自己形成」が母親役割の先行要件になることが明らかとなっている⁹⁾。「妊娠までの自己形成」は、「妊娠前の母親の人格形成過程である」とされており、個人的背景や社会的背景として年齢や婚姻期間、職業、家族形態が母親役割に影響を及ぼしている⁹⁾。母親自身の生育環境から得た「母親」に関する固定観念も母親役割獲得に影響することが先行要件として挙げられていた⁹⁾。つまり、「母親」になるまでの自己形成は母親になってからの母親役割の獲得の基盤となり、産後の自己成長へとつながるのだと考えられた。同様に先行要因に【出産体験の振り返り】があり、母自身が出産経験に満足していることが産後の母親としての満足度を高めていることから⁶⁾、産後の母親役割獲得には妊娠前から産後にかけての母親の自己形成や母としての満足度の経過に着目することが重要であると考えられる。

2) 概念活用の有用性

本研究で見いだされた『産後の母親役割獲得』の定義は、通常の経過をたどる妊婦のみならず、望まない妊娠など母親役割獲得が困難だと考えられる事

例においても、支援を検討する際の前提として活用することができる。

妊娠期からの準備や育児技術の習得などの母親役割の獲得過程で、自己肯定感の芽生えやアイデンティティの確立といった母親としての思考・感情の変化が生じ、母子相互作用へ影響や育児方法の確立に至る。したがって本概念は、母親役割獲得の支援を検討する際に着目すべき母親の状況を示すと言える。これらの視点から母親の心理面および母子関係をアセスメントし支援が検討できるため、出産後の親子の健やかな育ちを促進させることに役立つ有用な概念である。

さらに、本概念を活用することにより検討される支援として、【妊娠期からの出産・育児への準備】がスムーズに行うことができるよう、保健師としてロールプレイを通して育児知識や技術の提供を行うことや、【母親を取り巻く人的環境】に夫との関係が含まれることから、父親学級などの教育支援も有効であると考えられる。

また、【周囲へのサポート】を十分に活用できるような環境を整えていくことが重要であること、医療スタッフと母親の信頼関係を構築し、母親が評価的サポートを受けられることが母親の安寧な児との暮らしへつながると示唆された。さらに出産後できるだけ早くバースレビューを行い【出産体験の振り返り】を肯定的に支援することで、出産体験による満足感が得られ、母親としての自信獲得やアイデンティティの確立、自己肯定感の芽生えなどが期待される。これらの支援が母親役割獲得を促進し、母子相互作用に良い影響を及ぼし、出産後の親子の健やかな育ちへとつながるのではないかと考える。

VI. 結論

本研究は、「産後の母親役割獲得」の概念をRodgersの概念分析の方法に基づき、33件の対象文献を用いて、定義した。その結果、「産後の母親役割獲得」は「生まれた子どもをわが子として受け入れ、育児技術の習得の段階を経て母親としての自覚をもち、母子関係を構築する過程で母親自身が成長することである。」と定義された。

本概念の産後における特徴は、妊娠期の母親役割獲得に比べ、授乳行動や育児など児との相互作用が大きく関わっていることであった。また、本概念を踏まえた妊娠期から産後早期の医療スタッフや周

囲のサポートによって、児への愛着が促され出産後の親子の健やかな育ちへとつながっていくと考える。

文献

- 1) 内閣府；平成18年版少子化社会白書,
<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w2006/18webhonpen/html/i1511110.html> (閲覧日 2022/7/28)
- 2) 厚生労働省；男性の育児休業取得促進等について,
<https://www.mhlw.go.jp/content/11901000/000676815.pdf> (閲覧日 2022/8/17)
- 3) 望月由紀子, 田中笑子, 篠原亮次, 杉澤悠圭, 富崎悦子, 渡辺多恵子, 徳竹健太郎, 松本美佐子, 杉田千尋, 安梅勅江 (2014). 養育者の育児不安および育児環境と虐待との関連. 日本公衆衛生雑誌, 61 (6), 263-274.
- 4) 子ども虐待防止オレンジリボン運動,
<https://www.orangeribbon.jp/info/npo/2021/08/-2-1.php> (閲覧日 2022/7/28)
- 5) 白石裕子, 舟越和代, 中添和代 (2002). ストレス場面における言語的反応の特徴からみた母親の虐待傾向とその関連要因. 日本看護研究学会雑誌, 25 (5), 47-58.
- 6) 森恵美 (2014). 日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発 42-43, 111-119.
- 7) ルヴァ・ルービン編 (1984). 新道幸恵, 後藤桂子訳 (1997). 母性論: 母性の主観的体験. 第1版. 医学書院
- 8) 鈴木由紀乃, 小林康江 (2009). 産後4か月の母親が母親としての自信を得るプロセス. 日本助産学会誌, 23 (2), 251-260.
- 9) 二川香里, 長谷川ともみ (2014). 母親役割の概念分析. 富山大学看護学会誌, 14 (1), 1-11
- 10) Mercer, R.T. (1985). The process of maternal role attainment over the first year. *Nursing Research*, 34, 198-204.
- 11) 辻恵子 (2007). 意思決定プロセスの共有 概念分析. 日本助産学会誌, 21 (2), 12-22.
- 12) Rogers B.L. (2000). Concept analysis: An evolutionary view, *Concept development in nursing foundations, techniques and applications*. 2nd ed., W. B. Saunders.
- 13) 中垣朋美, 千葉朝子 (2012). 母親役割獲得支援に向けた産後3~4か月の母親の現在と妊娠中の思いおよび希望する支援の検討. 日本助産師学会誌, 125-133.
- 14) 前原邦江, 森恵美 (2008). 産褥早期の授乳場面において看護職者が母親役割行動の観察から行ったアセスメントの内容. 千葉看護学会誌, 14 (1), 98-106.
- 15) 松山久美, 服部律子 (2016). 不妊治療後の妊婦への母親役割獲得に向けた妊娠期の支援. 岐阜県立看護大学紀要, 16 (1), 15-26
- 16) 大平光子 (2000). 産褥期の母親役割獲得プロセスを促進する看護援助方法に関する研究. 千葉看護学会会誌, 6 (2), 24-31.
- 17) 今野和穂, 廣瀬幸美, 白井雅美, 石田貞代 (2016). 双子を正期産で出産した母親の育児体験肯定的感情が母親役割の獲得へ及ぼす影響. 横浜看護学雑誌, 9 (1), 9-17.
- 18) 前原邦江, 森恵美, 岩田裕子, 坂上明子, 玉腰浩司 (2017). 初産婦の出産後6か月間における育児ストレスの推移とその関連要因: 産後1か月時の母親役割の自信の影響についての縦断的検討. 母性衛生, 57 (4), 607-615.
- 19) 前原邦江 (2006) 産褥期の母親役割獲得過程を促進する看護に関する研究—母子相互作用に焦点をあてた看護介入の効果. 母性衛生, 47 (1), 43-51.
- 20) 前原澄子 (1994). 周産期における看護の役割 母親役割獲得への援助. 産婦人科治療, 68 (5), 671-673.
- 21) 稲田千晴, 北川真理子 (2010). 産褥期の母乳育児をする母親の母親役割の体験. 日本助産学会誌, 24 (1), 40-52.
- 22) 中垣明美, 千葉朝子 (2012). 産後3・4か月の母親の母親役割獲得と妊娠中における産後の身体的変化へのイメージや産後の生活・育児に対する夫婦間調整との関連性. 日本助産学会誌, 26 (2), 211-221.
- 23) 角川志穂 (2005). 母親役割獲得に向けた継続的授乳指導の効果. 母性衛生, 46 (1), 100-110.
- 24) 田中利枝, 永見桂子 (2012). 早産児を出産した母親が母乳育児を通して親役割獲得に向かう過程. 日本助産学会誌, 26 (2), 242-254.
- 25) 岡田真奈, 三宅由貴, 市岡美奈子, 初田聡美, 押村望, 正木紀代子, 岡山久代 (2013). 初産婦・経産婦における母親役割・分娩準備行動と出

- 産満足度および育児肯定感との関連性. 滋賀母性衛生学会誌, 13 (1), 17-22.
- 26) 山本美佐子, 松島可苗, 掘込和代, 水嶋豊子 (2004). 母親役割意識と影響要因:産科退院前と月齢1カ月時の調査を通して. 北海道医療大学看護福祉学部紀要, 11, 43-49.
- 27) 緒方あかね (2018). 母親役割獲得を促すための妊娠期からの看護支援～特定妊婦への母親役割獲得理論を用いたアセスメントと看護支援～. 京一日赤医誌, 1 (1), 87-93.
- 28) 藤岡奈美, 中村綺花, 伊藤淳美, 知念早紀 (2017). 高齢初産婦が母親役割獲得過程に抱く育児ストレス～テキストマイニングによる産後一か月間のストレス言動分析～. 母性衛生, 58 (1), 192-201.
- 29) 中村美由紀 (2018). 育児期のバースレビュー (出産体験想起)に関する文献レビュー. 聖泉看護学研究, 7, 29-34.
- 30) 横手直美, 永田真弓, 宮里邦子 (2006). 緊急帝王切開の生児を出産した女性の『母親としての再起』の認知プロセス～産褥1週間における主観的体験の質的分析～. 母性衛生, 46 (4), 617-624.
- 31) 本間美希 (2012). 若年褥婦の母親役割獲得に必要なケアの検討. 川崎市立川崎病院看護部事例研究集録, 14, 31-35.
- 32) 前原邦江, 森恵美, 岩田裕子, 坂上明子, 玉腰浩司 (2016). 初産婦の産後1か月における母親役割満足感に関連する要因. 千葉大学大学院看護学研究科紀要, 38, 21-29.
- 33) 知念久美子, 玉城清子 (2011). 一般不妊治療後妊娠した女性の母親役割獲得—妊娠・出産期から産後3か月までの主観的体験—. 沖縄県立看護大学紀要, 12, 25-35.
- 34) 前原邦江, 森恵美 (2005). 産褥期における母親役割の自信尺度と母親であることの満足感尺度の開発. 千葉大学看護学部紀要, 27, 9-18.
- 35) 木村佳代子, 森恵美, 坂上明子 (2019). 後期早産児出産後の初産婦における母親役割獲得過程. 日本母性看護学会誌, 19 (1), 31-38.
- 36) 前原邦江, 森恵美, 土屋 雅子 (2014). 出産施設を退院後から産後1か月までに母親役割の自信が高まる要因—高年初産婦と34歳以下初産婦を比較して—. 日本母性衛生学会, 56 (2), 264-272.
- 37) 久納智子 (2019). 周産期におけるオキシトシン値の変化と母親役割獲得過程の関連. 心身健康科学, 15 (1), 42-47.
- 38) 田中和子 (2019). 子どもの成長に伴う子どもの愛着と母親役割達成感の縦断的調査. 母性衛生, 59 (4), 835-841.
- 39) 東由美子, 難波千恵子, 土井泉, 柿原宏美, 岡田泰子, 重保由香里, 藤森雅美, 宮下良美, 藤本文代 (2005). タッチケアが母親役割の動機づけに及ぼす影響, 岡山県母性衛生, (21), 51-52.
- 40) 中沢恵美子, 森恵美, 坂上明子 (2013). 35歳以上で初めて出産した女性の産後入院中における母親としての経験. 日本母性看護学会誌, 13 (1), 17-24.
- 41) 中田久恵, 村井文江, 江守陽子 (2013). 初めて育児をする母親が離乳を通して母親役割を獲得していくプロセス-離乳後期における母親役割獲得の質的研究-. 母性衛生, 54 (1), 69-77.
- 42) 前原邦江 (2006). 我が子の合図をよみとる感性を高める看護援助—産褥早期の母子相互作用のアセスメントから—. 母性衛生, 47 (2), 429-438.
- 43) 森山幸子, 鳥田三恵子, 足立智美 (2011). 産後の夫婦関係及び出産満足度と「胎児感情及び母親役割獲得行動」との関連. 家族看護学研究, 17 (1), 13-19.
- 44) 大嶺ふじ子, 儀間継子, 宮城万里子, 仲村美津枝, 鳥尻貞子, 佐久本薫, 杉下知子 (2000). 不妊治療を受けた妊産褥婦の不安と対児感情について. 母性衛生, 41 (4), 439-443.
- 45) 中村敦子 (2018). 里帰りにおいて実母が初めて母親となる娘の母親役割獲得過程を支援するプロセス. 母性衛生, 59 (1), 46-53.
- 46) 松尾笑子, 川田紀美子 (2020). 「妊娠期の母親役割」の概念分析. 母性衛生, 60 (4), 595-605

Conceptual analysis of postpartum maternal role acquisition

REINA AIZAWA*, ANJU NINOMIYA*, MIHO HANAYA*,
SAYURI YAMAMOTO*, MANA YOSHIOKA*, YUMIKO MORINAGA**

**Graduate School of Health and Welfare Science, Nursing Major, Okayama Prefectural University*

***Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare Science, Okayama Prefectural University*

Abstract : The purpose of this study is to clarify the concept of "acquisition of the role of mother after childbirth" and to examine the possibility of utilizing that concept for the healthy upbringing of parents and children after childbirth. Analyzed using Rodgers' conceptual analysis method, 4 attributes, 9 leading factors, and 3 consequences were extracted from 33 subject documents. As a result, "acquisition of the role of mother after childbirth" was defined as "the acceptance of the child who has come out of the womb and the acquisition of child-rearing techniques, the mother's self-awareness through the stage of mastering child-rearing techniques, and the mother's own growth while building a mother-child relationship." The characteristic of this concept was that the interaction by having a direct relationship with the child, such as breastfeeding behavior and direct care for the baby, was greatly related to the acquisition of the role of the mother during pregnancy. In addition, by sharing this concept among the parties concerned, reflecting on the experience of childbirth in the early postpartum period, and receiving support from medical staff and supporters in the community, we believe that attachment to the child will be promoted, leading to the healthy growth of parents and children after childbirth.

Keywords : postpartum; maternal role acquisition; conceptual analysis